



東松島市立赤井小学校 でめこん・教育相談便り 12月号

あかいつ子通信

【子供たちに自己決定の機会を】

不登校支援の「はひふへほ」

- ① 話合いが基本です
- ② 必要なのは助言ではなく理解
- ③ 不登校は前向きに捉えて支援
- ④ 変化を見逃しません
- ⑤ 本人の気持ちを大切に

長いと思っていた2学期も残すところあとわずか。まとめの時期に入りました。冷え込みも厳しくなり、忙しさの中で体調管理がおろそかにならないよう、声掛けをしていきます。

さて、宮城県は「志教育」を展開しています。「志教育」とは、「小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育（「みやぎの志教育プラン」より）」であり、本校でも推進しています。

親の目には子供は人間として未熟に映り、実際に失敗や間違いも多くしてしまうことでしょう。親が責任を取らなくてはいけない場面もあることで、親主導で物事を考えてしまうこともあるかもしれません。とは言っても、子供も1人の人間であり、子供の人生は子供だけのものです。命に関わるものや、取り返しのつかないもの場合は親の介入は絶対に必要です。しかし、失敗が成長の糧になるもの、やり直しがきくものなどの場合は、あえて子供に自己決定の機会を与え、もし失敗してしまったとしてもその努力を認め、励ましてあげることが大切です。失敗が次の挑戦につながるきっかけになればよいですね。



12月のSC来校日

12日(木) 19日(木)

心配事は 小さなうちに 相談を

あかいつ子通信や各種学校からのお便りのバックナンバーはここから。



親子の小窓



第8回テーマは「質問」です。話を聞くばかりでなく、「質問」を投げ掛け子供の内側にある意欲を引き出しましょう。質問には、「はい」や「いいえ」などの限定した答えを求める「クローズドクエスチョン」と、「どう思う？」などと問い掛けて、相手の自由な考えを引き出す「オープンクエスチョン」の2つがあります。断定的な質問や否定的な質問ではかえって逆効果になることがあります。オープンクエスチョンを中心にして、肯定的な質問や感想をたずねてみると、子供は自分で考え始めます。日々の生活で、子供の辛そうな姿を見ると解決してあげたいという思いから、大人の考えを伝えがちです。「相手の考えを引き出す」「相手の考えを深めさせる」などと意識して質問をすることが大切です。

関わりのポイント

相手の考えを引き出す、返しや相づちの例

- ・うんうん ・なるほど ・それで? ・そうなんだ
- ・そっかあ ・というと? ・へえ ・詳しく教えて
- ・どんなことでもいいよ ・(無言で、うなずきながら聞く)



【10月の でめこんアンケート結果 より】

赤井小学校児童へのアンケート結果です。(数字は%を表します。)

A：よくできた B：まあまあできた C：あまりできなかった D：できなかった
 A+Bの合計（前向きなアンケート結果）が先月より 増：青 減：赤

	下学年(1~3年生)				上学年(4~6年生)			
	A	B	C	D	A	B	C	D
① 日 時間の使用	43.1	29.4	11.8	15.7	34.2	38.2	19.7	7.9
②就寝 時間前までの使用	64.7	21.6	7.8	5.9	50.0	28.9	11.8	9.2
③定時の就寝	68.6	27.5	2.0	2.0	53.9	28.9	10.5	6.6
④定時の起床	66.7	25.5	3.9	3.9	60.5	26.3	10.5	2.6
⑤朝食	88.2	9.8	2.0	0	82.9	11.8	2.6	2.6
⑥30分以上の運動	68.6	17.6	9.8	3.9	67.1	15.8	10.5	6.6
⑦でめこんを意識した生活	47.1	33.3	13.7	5.9	35.5	40.8	19.7	3.9

だんだんと寒さが増し、日暮れも早まり、室内で過ごす時間が長くなるとともに過ごし方も変容します。今回はその影響を色濃く反映したものだと考えます。一方で、このような時期だからこそ「でめこん」をしっかり意識して生活する必要があります。

今回はSSWの石川先生に運動の大切さについてお聞きしました。



教えて!石川先生 のコーナー

【I:回答者(SSW:石川先生) C:質問者(教務主任:千葉)】

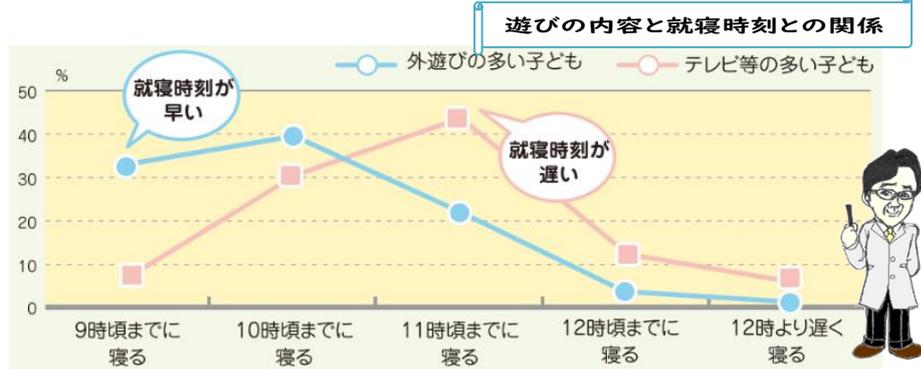
C 「あかいつ子通信」9月号で、運動習慣と『セロトニン』の関係について教わりました(バックナンバー参照)。運動が不足したまま生活を続けるとどんな影響があるのですか?

I 児童期は、一生の中でも体の機能が大きく発達する時期です。体力や運動能力が向上するだけでなく、その後の成長や健康な生活にも大きな影響を与えます。この時期に運動に親しんでおくことは体づくりの基盤になるだけでなく、五感が刺激されることで子供たち一人一人の興味や好奇心も広がるのです。

C なるほど。今だけではなく、生涯にわたって良い影響があるのですね。

I そうですね。しかも運動をすると体が疲れるので就寝時間が早まり、早起きにもつながります。早起きをするから朝ごはんもしっかり食べられる。そのように自然と規則正しい生活サイクルにもつながります。運動そのものの好影響だけではなく、生活すべてにおいて好影響を受けやすくなります。その上、自己肯定感の向上や脳の発達にもつながるのですよ。

C 現在の好影響と将来にわたっての好影響、両方あることがよく分かりました。赤井小ではマラソンや縄跳びに力を入れて取り組んでいます。あかいつ子の健全な成長のために、今後も運動を推進していきます!



宮城県教育委員会：「川島隆大教授と考える『うちの子の未来学』」より